

Connect
the

space- ^{トビラ}扉 展

意図

世界には様々な扉がある。

私たちを地上又は地下へと運ぶエレベーターの扉
深海魚の侵入を防ぐ潜水艦のハッチ
一家のお漬物から千両箱まで守ってくれる蔵の扉
凶悪な犯罪者を閉じ込める鉄格子の扉
プリンを冷やしてくれる冷蔵庫の扉

機能性を重視したものから、素材感や装飾に富んだものまで、扉はその用途によって様々な姿を見せる。

また、一様に扉はその目的に対する機能美を備えている。そのことを思いながら改めて扉を見つめてみると、その向こう側にもっと奥深い魅力を隠し持つ存在のように思えた。それは造形の美しさ。あるいはその存在だけで向こう側に空間を提示し、私達と空間を繋ぐという性質。また時折見せるミステリアスさなどが、その可能性を示唆するのである。

今回私はそんな「扉」と向き合う「Connect the space-扉」展を企画した。

本展では、写真、絵画、映画など様々な方向から「扉」をアプローチすると同時に、扉単体の美しさだけでなく、空間と繋がりを持つことによって生み出される美しさにも目を向けることで、より複眼的な視点から「扉」の魅力に迫る。

内容

会場：国内の美術館

期間：2020年3月1日～5月31日

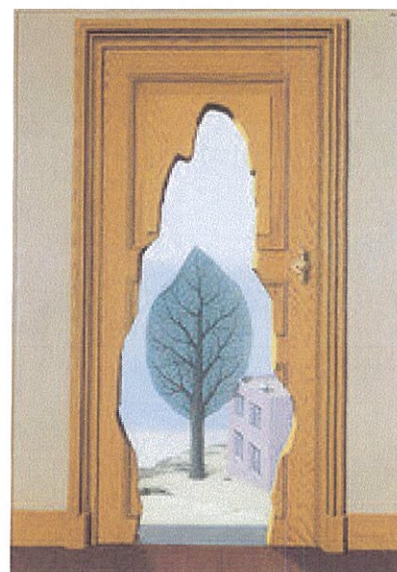
開館時間：午前8時～午後6時まで

全部で7つのコーナーがある。

- 1 通路の両側の壁に計30枚ほどの扉の写真が貼られており、どこの国の何の建物の扉かが書いてあり、様々な扉を見ることができる。



「白い扉、あるいは開いた扉」 ヴィルヘルム＝ハンマースホイ



「愛の遠近法」 ルネ＝マグリット

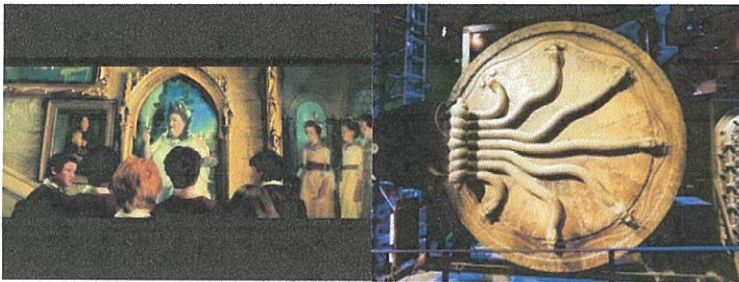
- 2 絵画が2つ展示されている。1つ目はルネ＝マグリットの「愛の遠近法」で、2つ目はヴィルヘルム＝ハンマースホイの「白い扉、あるいは開いた扉」である。
どちらの絵も扉が印象的に描かれており、効果的に扉の存在を示すことができると考えた

3 ローマ神話において扉の神であるヤヌスの紹介と、そのヤヌスの神殿を描いたルーベンスの絵画がある。ヤヌスは一月を示す英語(January)の語源にもなった神で、ヨーロッパでは扉を信仰し、大切にしていたことが伺える。



「ヤヌス神殿」ピーテル＝パウル＝ルーベンス

4 ユニークな扉が出てくるメディア作品を紹介している。会場には実際に作品中に登場する扉のレプリカが展示されており、触ったり開いたりすることができる。どの作品も非常に有名なものばかりだが、扉を意識してみると、新鮮さを感じられると思う。



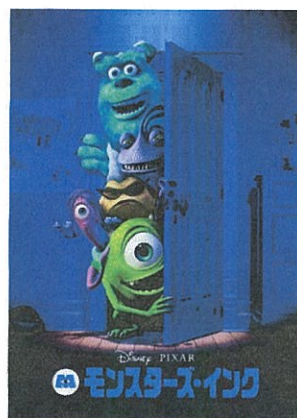
ハリーポッターシリーズ[ワーナー・ブラザーズ]
様々なファンタジックで個性的な魔法の扉が出てくる。



ナルニア国物語[ウォルデン・メディア]
物語ではこの不思議なダンスの扉の向こうにナルニア国がある。



鋼の錬金術師[講談社]
作中に出てくる真理の扉は物語の重要なカギを握っている。



モンスターズ・インク[ピクサー]
作中では、扉はモンスターたちが子供部屋に行くための大切なツールである。



ハウルの動く城[スタジオジブリ]
城の扉はダイヤルを回すたび別の場所につながる。



ここからは屋外での展示となる。

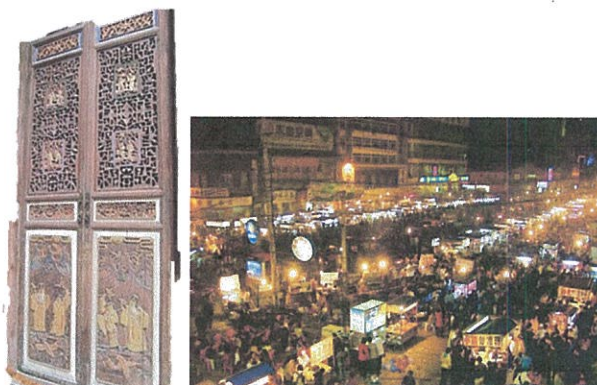
5 氷、砂、花、チョコレートを材料に作られた巨大な（2m×4m）四枚の扉が設置されており、触ったり、匂いをかいだりすることができる。触ると冷たい扉、食べるとおいしい扉など、五感で扉を感じてもらいたいと考えた。

6 ここでは美しい装飾の施された扉を全部で5つ紹介していく。また扉を開くとその扉が実際に存在する場所が、忠実に再現された空間へとつながる。

紹介されている扉

① 中国の伝統的な民家の扉

上半分は格子、下は絵の施された板になっている。格子部分の対照的な幾何学模様は美しい。扉の向こうには、広い市場が広がっている。実際に人がモノを売っており、買ったりすることも可能である。



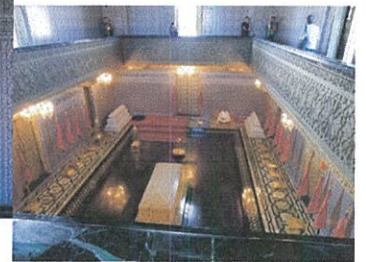
② ベルギー・ブリュセル「メゾン・オルタ」の扉

扉の上部のガラス部分を飾る美しい曲線は、アールヌーボーの代表的な表現である。扉を開くと、メゾン・オルタの一階が再現された部屋へとつながる。



③ モロッコ・ラバト「ムハンマド5世廟」の扉

アラベスクでいろどられた扉はイスラーム建築の独特な美しさを見事に表現している。扉の中は、ムハンマド5世の廟が再現されている。棺の横ではコーランを読んでいる人もいる。



④ ヴェルサイユ宮殿「ヴィーナスの間」の扉

白と金を基調とした、扉は、バロックの建築様式がよく伝わってくる。扉を開けると、ヴィーナスの間が再現されている。17世紀の貴族に扮した人々の中でくつろいでおり、絶対王政期のフランス貴族を垣間見ることができる。



⑤ 日本京都「輪違屋」の「傘の間」の襖

襖に大きく描かれた傘はとてもユニークだ。開くと老舗茶屋の輪違屋へとつながっている。中では太夫に会うことができる。





「地獄の門」ロダン

- 7 最後はロダンの地獄の門が展示してある。この門扉はダンテの「神曲」を元に作られており、先にあるであろう地獄ないし禍々しいものを感じさせる。この有名な作品は新たためて扉という存在を我々に問うてくれる。この展覧会の最後にふさわしい作品だ。

展覧会はこれで終了である。

日常にある扉に目を向けたとき、少しだけ見え方が変わってくるのではないだろうか。

使用画像

<http://vrdotcom.blog.jp/archives/1037692364.html>

<http://aidama.info/2014london005/>

<http://prcm.jp/list/%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%82%BA%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%82%AF%20%E3%83%AD%E3%82%BA>

<http://twisoku.ldblog.jp/archives/46454452.html>

http://blog.livedoor.jp/inoken_the_world/archives/2010-01.html?p=2

<http://blog.goo.ne.jp/cyaz/e/e5d64393e537434b07013235f05502a0>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A4%E3%83%8C%E3%82%B9%E7%A5%9E%E6%AE%BF>

<http://www.nmwa.go.jp/jp/collection/1959-0045.html>

<http://blog.goo.ne.jp/chakilmame/e/33f2a61d5f96916e50e166d6caebb13d>

<http://gyuopera.exblog.jp/20548128/>

<http://ameblo.jp/materialstyle/entry-11966496490.html>

<http://kimonostation.jugem.jp/?eid=285>

https://www.google.co.jp/url?sa=i&rct=j&q=&esrc=s&source=images&cd=&cad=rja&uact=8&ved=0CAYQjB1qFQoTCLrulZ7688gCFePcpgodBE8EZg&url=http%3A%2F%2Fmatome.naver.jp%2Fodai%2F2141989494209933601%2F2142014239408461803&psig=AFQjCNGy-pKnjrYop7NIEQHMAq_bwGnpqQ&ust=1446629793455419

http://travel.news.cn/2010-07/09/c_12316122_2.htm

<http://blogs.yahoo.co.jp/otsuka1946/28670748.html>

http://blog.livedoor.jp/bochan693/archives/cat_1212763.html?p=6

http://www.jtb.co.jp/kaigai_guide/western_europe/kingdom_of_belgium/BRU/118485/

<http://campingcar.shumilog.com/2010/03/21/%E3%83%8F%E3%83%B3%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%82%B9%E3%83%9B%E3%82%A4/>

<http://china.bokuga.org/?page=1&cid=44131>

<http://www.geocities.jp/sakushiart/im3.htm>